

令和7年度松本市社会福祉審議会 第1回 松本市地域福祉専門分科会 会議録

日 時	令和7年5月22日（木） 午前10時～午前11時33分
会 場	本庁舎3階 第一応接室
出席者	委員12名（欠席者1名）
次 第	1 開会 2 あいさつ 3 正副会長選任 4 議事 (1) 第5期松本市地域福祉計画の策定について (2) 市民アンケート調査の実施について 5 その他 6 閉会
あいさつ	2 あいさつ 豊原福祉政策課長
正副会長 選任	3 正副会長選任 (1) 委員自己紹介 地域福祉専門分科会委員12名（欠席者1名） (2) 正副会長選任 互選により選任された。 - ア 会長 向井 健 委員 - イ 副会長 草深 邦子 委員 (3) 正副会長あいさつ 向井会長 草深副会長

議 事	4 議事 (1) 第5期松本市地域福祉計画の策定について 《会長》 地域福祉専門分科会に付託された、「第5期松本市地域福祉計画の策定について」を議題といたします。諮問事項第5期松本市地域福祉計画の策定について、事務局から説明をお願いします。 《事務局》 説明 《会長》 ただいま説明がありました「第5期松本市地域福祉計画の策定について」、令和7年度までの第4期の松本市地域福祉計画を基本的に踏襲しつつも、現在の社会的な背景、個人や世帯が抱える課題が複雑化・複合化している背景、そして制度の狭間の問題ということを踏まえ、第5期の地域福祉計画を策定していきたいという説明でした。ご質問等ございますか。 《浅野委員》 別紙1「第4期地域福祉計画の進捗状況」の3－1公民館活動利用人数（累計）欄について、現状値及びR7目標値に対して、令和5年度末及び令和6年度末見込み値がかなり上回っているが、数字のミスか。 《事務局》 担当課である生涯学習課が提示した数値のため詳細は不明だが、現状値及びR7目標値についてはコロナ禍中の実績値を元に設定したものの可能性がある。詳細については改めて担当課へ確認したい。 《浅田委員》 制度の狭間の問題があるが、そもそも狭間が発生しない制度を作っていたきたい。声を上げられない方への対応が重要と考える。 《会長》 今の浅田委員の意見のように、第5期計画の内容を議論するにあたり、委員の皆さんが日々活動する中で、地域福祉や社会状況について気になるところ、制度の狭間となっているところ、またはその他重要視しなければいけないと感じるところなどあれば、お願いします。
-----	---

《藤森委員》

自分は公民館活動を10年ほど行っている。公民館は身近な学習・交流の場として存在しているが、学習・交流を通して人と人を繋いでいき、互いの違いを理解し合いながら、お互いに認め合い、支え合い、顔の見える関係を築いていく活動の一助となっていると感じている。地域の中には町会長、民生委員、公民館長など様々な立場の方がおり、それぞれの理念に基づき活動をしているが、お互いに連携し合って地域づくりに向き合っていくことが重要と考える。

《草深委員》

民生委員と町会長とは、多くの場面で連携をしている。個人情報扱うこと、各町会の実情などがあるため、連携の仕方は一律ではなく町会により様々だが、災害時対応も含め関係づくりは進めている。また、社会福祉協議会で地域の交流のための補助金制度があり、松本市内のかなりの町会が地域の交流のために制度を使用してサロン活動をしていると聞いている。まず町会から地域の関係づくりを深め、最終的に松本市全体の地域福祉がより良くなっていくことで、声を上げられない方への対応もできるようになるのではないかな。

《浅野委員》

町会長、地区の連合町会長を担う中で、草深委員と同じように感じている。地域づくりを進める中で中心となるのはやはり各地区地域づくりセンターではないか。地域づくりセンターは必ず公民館と併設しているため、公民館活動とも連携することができる。そういったところから市も地域づくりに対する連携を深めていってほしい。また、社会福祉協議会と市との連携についてだが、例えば社会福祉協議会と福祉ひろばとの違いが一般市民には分かりづらい。お互いの機能・役割の分担を明確にした上で、連携する部分など市民にとってより分かりやすい計画を立ててほしいと考える。

《会長》

今それぞれの委員から指摘いただいた内容は、第5期計画を考えていく中で目指す方向として事務局が掲げた内容と重なる部分が多くあると感じました。相談をしたくてもできない方への相談支援をいかにしていくか、社会的孤立が問題となる現代社会において地域の顔が見える関係の重要性、行政機関や法人の役割や機能の分担・連携の問題についてなど、各委員から課題を提示いただきました。このことを踏まえ、第5期計画が目指す方向性について、何かあればお願いします。

《伊藤委員》

社会福祉協議会としても、今回の市の計画と連携して地域福祉計画を考えていくことになる。先ほど草深委員からも指摘いただいた「いきいきサロン」という事業については、ふれあいの場、人間関係づくりの場を設けることを目的として、年々町会からの申請数が増えている。社会福祉協議会は地域福祉の推進ということを使命としているが、行政とも歩調を合わせ進めていかなければいけないと考えている。資料の中にもあるように、「お互いに困ったと言える、また困っている人に声をかけられる地域を目指す」というものは、第5期計画の中でも肝になってくる部分。ただ、声を上げられる方に対する支援が大切なのはもちろんだが、声を上げられない方に対する支援については、いかに声を聴ける体制を作るか、こういった対応ができるかということを考えていく必要があると感じている。

《会長》

次に、基本理念、スローガンというものについて、いかがでしょうか。先だっで行われた第1回松本市社会福祉審議会の中では、前向きな計画を立てて進めてほしいとの意見が出ました。その点について意見があればお願いします。

《浅田委員》

第4期の基本理念に、「みとめ合い、役割を持ち、支え合って生きる」というものがあるが、この中に制度の狭間にある方を拾い上げるといった内容を盛り込めないか。表現はもう少し考えたいが。

《会長》

制度の狭間に落ち込んでしまった方にも光が当たるような、そういった内容について、より良い表現を探していければという意見でした。今後第5期計画を考え調査していく中で、地域福祉の抱える課題、求められるものが浮かび上がってくると思いますので、そのプロセスを踏まえ、当分科会で今後も継続して考えていきたいと思います。

次に、協議事項2「市民アンケート調査の実施について」、事務局から説明をお願いします。

《事務局》

説明

《会長》

ただいま説明がありました「市民アンケート調査の実施について」、18歳以上の男女1500人を無作為抽出し行うということです。アンケートの内容及び実施方法についてご意見をいただきたいと思います。また、実施スケジュールについても、ご意見ある方はお願いします。

《浅田委員》

先に郵送いただいたアンケート調査の資料では2000人が対象ではなかったか。

《事務局》

当初から1500人です。

《浅田委員》

アンケートの項目・量についてはこれで問題ないと思うが、これが制度の狭間にいる方に対して届き、回答が得られるのかどうか。

《事務局》

制度の狭間にいる方へのアンケート調査、またアンケート調査に対する回答については、様々な課題があると認識している。アンケート調査のみに頼らず、障害者福祉専門分科会、高齢者福祉専門分科会、児童福祉専門分科会の委員の皆様にもご意見をいただくなど、日ごろから制度の狭間にいる方に関わっている方からのご意見も取り入れていきたいと考えている。

《浅野委員》

アンケート調査の調査票の体裁についてだが、A4サイズを想定しているか。高齢の方などを想定し、もう少し字を大きくするとか、カラー印刷を行うなど工夫をした方が回答しやすいのではないか。

《事務局》

現状ではA4版、黒白を想定しているが、アンケート調査の委託業者と調整したい。

《会長》

アンケート調査については紙だけでなく、その他のツールを使用するなども視野に入れて、回答しやすい形を考えていただければと思います。他にありますか。

《藤森委員》

アンケート調査の項目や目的などに合致するよう、無作為抽出ではなく各世代ごとに人数を決めて抽出をしてはいかがか。

《事務局》

無作為抽出には調査結果に偏りが出ないようにする目的もあるため、今後事務

	局の方で検討したい。 《会長》 アンケート調査については、統計上の知見などを確認しながら、適切なアンケート調査が実施できるよう検討をお願いします。他にありますか。 《小林委員》 市では様々なアンケート調査を行っていると思うが、そういったアンケート調査結果を課を越えて共有はできるか。健康福祉の分野のみならず、過去に市で行ったアンケート調査結果に、今回の第5期計画策定の参考になるものがあるのではないか。過去のアンケート調査結果を共有することができれば費用面もかなり抑えられるのではないかと。 《会長》 市ではそういった多くの情報があると思いますので、上手く活用できるような工夫をお願いしたいと思います。
その他	5 その他 【ご意見等】 なし